

区自治協議会提案事業 事業評価書

中央区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	子どもが真ん中！地域と学校でつくる学びの未来～提案型協働事業～ 【事業費予算 1,700千円】 ※予算は「福祉・安心安全部会」と共有
事業目的・概要	市教育ビジョンの柱である「学・社・民融合による人づくり、地域づくり、学校づくり」に沿い、学校現場などで地域課題と向き合っている方々が提案する子どもたちの未来につながる様々な事業を、部会員がサポートし、継続実施に向けて一緒に取り組んでいく。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>(1)小学生の為の将棋教室 地域の将棋クラブが小中学生を集めて将棋教室を開催。伝統を引き継ぐ活動を継続することで世代間交流が図られるとともに子どもたちの情操教育にも資する。(12月から月2回開催。参加児童・生徒約18人/回)</p> <p>(2)親子でゴスペル！ 地域のゴスペルグループが、光のページェント点灯式を盛り上げようと、地域の大人と子どもたちが参加できる企画を考案。点灯式当日、親子でのゴスペルが披露された。(12/8開催。参加者24人)</p> <p>(3)小さな光の美術館 障がい者アートの魅力を広く知らせるため、地域の交流スペースなどで障がい者のアート作品を展示。笹口小6年生7人が企画提案を行い、実現した取組み。(展示期間 11/24～12/25)</p> <p>(4)子どもプログラミングチャレンジ！ 白山小のふれあいスクールで「プログラミング教室」を開催。委員がつなぎ役となり、先生や大学のサポートを受け児童がプログラミングスキルを楽しく習得。(12月から月2回開催。参加児童 約38人/回)</p> <p>(5)桜が丘プレミアムフライデー 小学校の空き教室を使って、地域住民と児童がオセロや囲碁・将棋などの昔遊びを通じて多世代交流を図ろうという取組み。(2月から月2回程度開催。参加児童 約78人/回)</p> <p>(6)子どもと創る四つ葉地域交流事業 上所小学校を会場に、公民館のサークル活動を発表したり、児童と一緒に交流を楽しんだりするふれあいの場を開催。(1月から月1回程度開催。参加児童 約45人/回)</p> <p>(7)子育てサロン＆茶の間 小学校併設の地域の交流スペースで「親子の居場所」を開催。小学生や地域の方が集える場なので、幅広い世代間交流が期待できる。(12月から毎週開催。参加者延べ140組)</p> <p>(8)障がい者と小中学生の交流 アート活動を通じて、障がい者と小中学生との交流を図ろうと、3月3日にNEXT21のアトリウムでワークショップを開催。今後は、各学校での事業実施を進めていく予定。(ワークショップ参加者 140人)</p>
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</small>	<p>○初めて取り組む事業ということで、開始が遅れたことが影響し、後半に業務が集中した。初年度の応募は3～4件程度と見込んでいたが結果的に10件以上となり、ニーズの高さや各事業の実施状況から効果を実感した半面、部会メンバーの負担は大きかった。</p> <p>○地域課題の抽出方法としては、自治協委員の見える範囲だけではなく、地域の現場で活動している方々からご提案いただいたことで、新たな視点を取り入れることができ、実効性のある事業につながったと考えている。</p> <p>○自治協委員が主体となって企画立案する事業と異なり、仮説や結論を描くことが難しく、部会内や事務局との情報共有の重要性を痛感した。事業の目的は一定程度達成されたと評価できると考えるが、今後、効率よく事業を進めるための手法を検討する必要がある。</p>
備考	